

汚染水対策

陸側遮水壁の完成

- 2018年3月に陸側遮水壁はほぼ全ての範囲で地中温度が0℃を下回り、山側では4~5mの内外水位差を形成。
- 2019年2月までに、全区間で維持管理運転を開始。



陸側遮水壁内側

陸側遮水壁外側

サブドレンの信頼性向上

- 2018年4月にパッファタンクの増設、配管の二重化工事等によりサブドレン系統の処理容量を増強(900m<sup>3</sup>/日⇒1500m<sup>3</sup>/日)する等、信頼性を向上。

フランジタンク内のSr処理水の処理完了

- 2018年11月にフランジタンク内のSr処理水の浄化処理及び溶接型タンクへの移送が完了し、漏えいリスクが低減。
- 2019年3月末までに、フランジタンク内のALPS処理水の移送を完了する予定。

各号機間の建屋滞留水の切り離し完了

- 建屋内滞留水の処理を進め、2018年9月の水位低下時に1-2号機間の切り離しを達成し、各号機の滞留水の切り離しが完了。
- これにより、号機ごとの建屋流入量の評価が可能となった。

廃棄物対策

大型機器除染設備

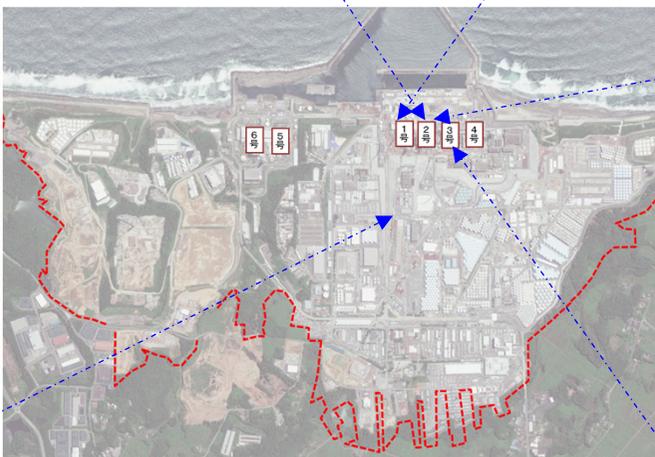
- フランジタンクのリブレースに伴い発生する解体タンク片等の除染を行う大型機器除染設備の運用を2018年5月に開始。
- これにより、タンク片の切断に伴う作業員の被ばく量が低減し、構内作業環境の改善に貢献。



燃料デブリ取り出し対策

2号機格納容器内部調査

- 2019年2月に格納容器内堆積物への接触調査を実施し、小石状・構造物状の堆積物を動かせることや、動かせない硬い岩状の堆積物が存在することを確認。



提供：日本スペースイメージング(株)2018.6.14撮影  
Product(C)2018 DigitalGlobe, Inc.

廃炉資料館開館

- 国内外の多くの皆様に、福島原子力事故の事実と廃炉事業の現状の現状をご確認いただける場として、2018年11月に開館。
- 2019年3月14日時点で、のべ11,418人が来館。



プール燃料取り出し対策

1号機燃料プールからの燃料取り出し

- 使用済燃料プール(SFP)の養生開始に向け、SFP周辺へのアクセスルートを確認するため、建屋カバー梁計4か所の撤去を完了。今後、SFP保護の措置を実施。



建屋カバー梁 撤去前

建屋カバー梁 撤去後

2号機燃料プールからの燃料取り出し

- オペフロの汚染状況調査に向け、2018年11月に残置物移動を実施し、2019年2月に汚染状況の調査を完了。今後、引き続き残置物の移動を実施。



残置物移動状況

線量調査状況

3号機燃料プールからの燃料取り出し

- 2018年8月以降に発生した燃料取扱設備のトラブルを受け、9月から12月にかけて安全点検・品質管理確認を実施。
- 2019年2月末に燃料取扱設備の電源ケーブルに不具合が生じ、3月末を目標としていた取り出し開始が4月以降に延期。3月8日に復旧が完了し、3月9日から訓練を再開。



燃料取扱機 (FHM)

クレーン

IAEAレビューミッション

- 廃炉作業の進捗状況等について専門家による評価と助言を受けるため、2018年11月、IAEA調査団を受け入れ、緊急状態から安定状態への移行が達成されたとの評価を受けた。
- 報告書には、この他、17項目の評価できる事項と、21項目の助言が記載。